



生徒が互いのよさを認め合う



# 自己有用感 パワーアップガイド

生徒による主体的な活動を導き、  
互いのよさを認め合う場を作り出す活用資料集



# ～目次～

## 第1章 互いに認め合う授業づくりに向けて

1. 互いに認め合う授業づくりに向けて
2. 話し合い活動の基本的な活動過程
3. 学級活動で自己有用感を高める手立て（話し合い、認め合い、高め合い）
4. 校内研修資料

## 第2章 3年間を見通した学級活動計画表

## 第3章 話し合いの仕方ガイドブック

1. 「話し合いの流れ」について
2. アイデアを出す方法（発散の方法）
3. アイデアをまとめる方法（収束の方法）
4. 「話し合いの人数」について
5. 授業デザインの仕方



## 第4章 チームになろうシート

### ○学校行事・学級活動

1. 自己理解・他者理解
2. 陸上記録会
3. 合唱コンクール
4. 進路学習
5. 来年度に向けて

### ○生徒指導

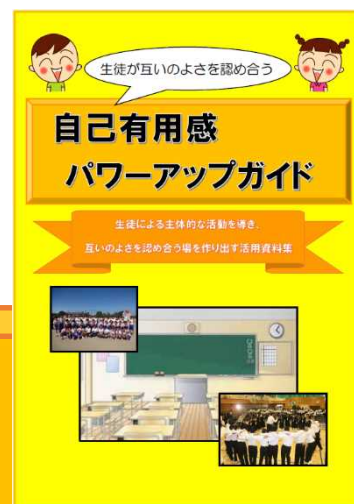
6. 携帯電話の使い方
7. いじめ未然防止

## 第5章 コミュニケーションスキルの向上シート

1. アイスブレイク
2. ソーシャルスキル
3. アサーション
4. エンカウンター

# 第1章

## 互いに認め合う授業づくりに向けて



1. 互いに認め合う授業づくりに向けて
2. 話し合い活動の基本的な活動過程
3. 学級活動で自己有用感を高める手立て  
(話し合い、認め合い、高め合い)
4. 校内研修資料

「自己有用感の意味」や  
「互いに認め合う場の設定の重要性」について、  
教職員の共通理解を図るための資料です。

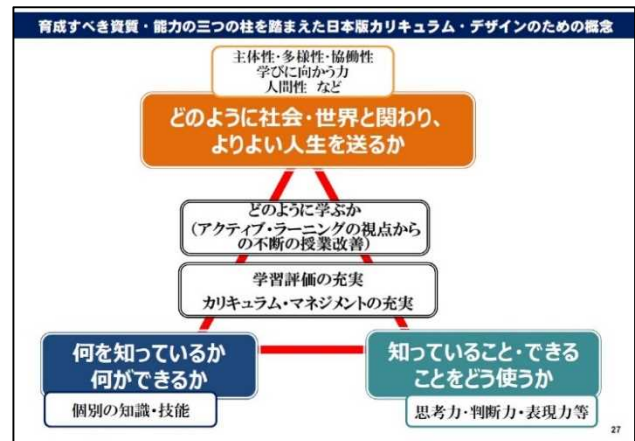
# 1. 互いに認め合う授業づくりに向けて



「主体的・対話的で深い学び」、「自己有用感」、「いじめの未然防止」…。多くの言葉が、今、学校現場で聞かれます。そして、多くの先生から、「言葉は聞くけど、どんな内容なのか、よくわからない。」「具体的に、どんなことをすればいいか、わからない。」という言葉も、よく聞かれます。「自己有用感」について考える前に、これらの関係について、整理してみましょう。

## 主体的・対話的で深い学び

文部科学省の教育課程企画特別部会における「論点整理」では、「学校教育を通じて育成を目指す資質・能力」として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つを挙げています。これらの育ちを実現するためには、学んだことと自分の人生や社会の在り方を主体的に結び付けたり、多様な人との対話で考えを広げたり、教科等で身に付けた様々な見方、考え方を通して世の中を捉え、深く考えたりすることが重要です。こうした学びの在り方が、「主体的・対話的で深い学び」です。これからは、教育課程全体の中で、これらを意識した教育活動が展開されていくことが求められています。



出典：教育課程企画特別部会における「論点整理」

## 「自己有用感」と「自尊感情」の違い

「自尊感情」が、「自分に対する自己評価が中心」なのに対し、「自己有用感」は、「自分に対する他者からの評価が中心」です。従って、「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」など、相手の存在なしには生まれてこない点で、「自尊感情」とは異なります。また、「自己有用感」も「自尊感情」も自己を肯定的に捉える点では同じですが、他者の存在を前提としない「自尊感情」は、社会性に結び付くとは限りません。

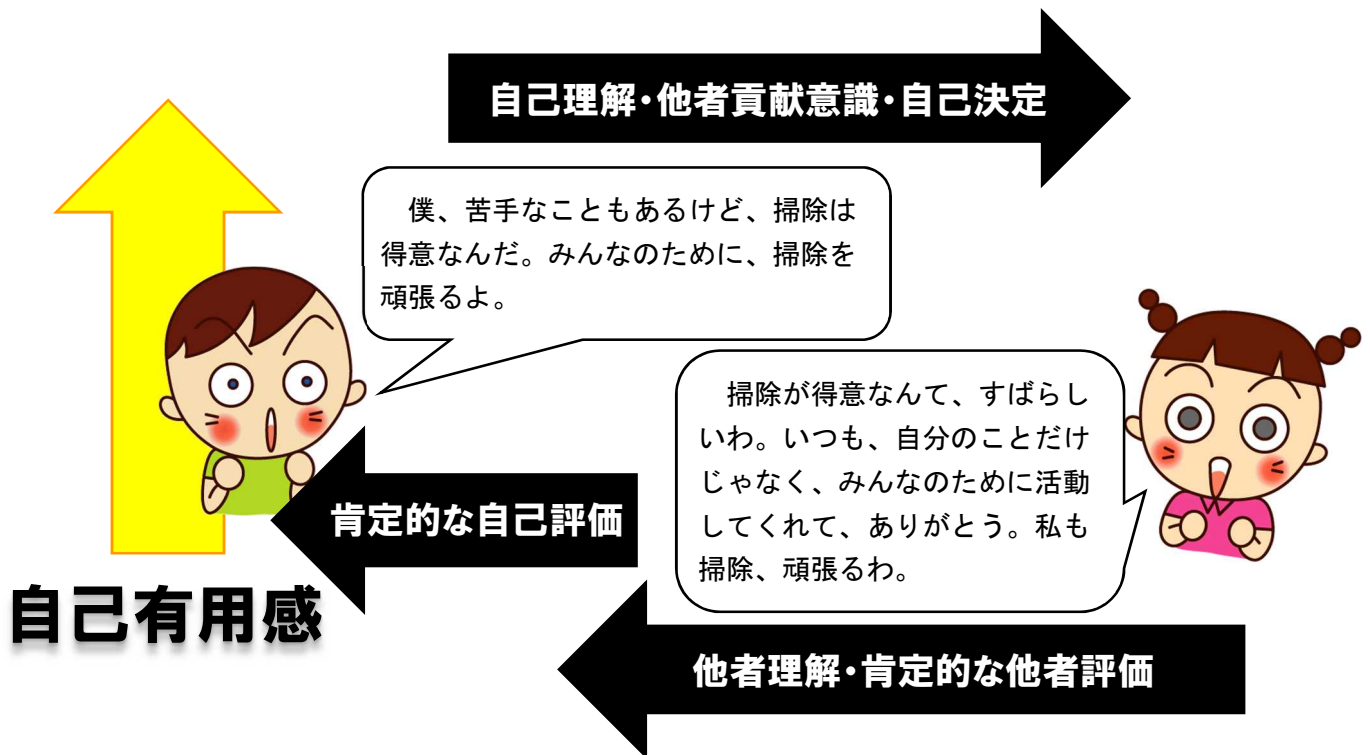
「自己有用感」とは、

**自分と他者(集団や社会)との関係を、自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価**

出典：生徒指導リーフ（文部科学省）

です。最終的には自己評価であるとしても、他者からの評価を強く感じた上でなされるという点がポイントです。単に「クラスで一番足が速い」という自信ではなく、「クラスで一番足が速いので、クラスの代表に選ばれた。みんなの期待に応えられるよう頑張りたい」という形の自信です。その意味では、「クラスで一番」かどうかは、さほど重要ではなく、とさえ言えます。

それでは、「自己有用感」は、どんな場面で生まれてくるのでしょうか。自己有用感、他者からの好意的な評価があって感じることでできる感情ですから、他者との関係の中で、生まれます。つまり、**相手のよさを認めること**で、「自己有用感」が生まれます。例えば、



さらに、教師が生徒を認めるだけではなく、生徒同士が、**互いのよさを認め合うこと**で、「自己有用感」に満ち、居心地のよさを感じる学級の雰囲気づくりへとつながっていきます。

#### コラム 「褒める」と「認める」の違い

生徒の「自己有用感」を高める上で、押さえておかなければならないポイントに、「褒める」と「認める」の違いがあります。

「褒める」とは、『**相手側の基準**で一定の水準に達した、水準を超えたと評価してもらう行為。』です。

「認める」とは、自分なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことなど、『**自分の決めた基準**で一定の水準に達した、水準を超えたと評価してもらう行為。』です。

行事や学習に取り組む際に、生徒自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが「認める」という行為では重要です。そして、その「相手を認めること」が、「自己有用感」を高めることにつながります。

出典：生徒指導リーフ（文部科学省）

#### コラム 「自己〇〇感」

「自己有用感」と似た言葉に、「自己肯定感」「自己存在感」などがありますが、それらの意味については、以下の通りです。

自己肯定感

…自分の価値や存在意義を肯定できる感情。

自己存在感

…この集団に確かに存在しているという実感

自己効力感

…やればできる力があるという実感、自信

これらの感情があふれる空間を、作っていききたいですね。

出典：生徒指導リーフ（文部科学省）などを参考に作成

# 互いのよさを認め合い、 自己有用感を高める 生徒の育成



平成〇〇年〇月〇日 (〇)  
〇〇立〇〇学校  
〇〇 〇〇

1

## 今日のメニュー

- 「自己有用感」について
- 「認め合う場の設定」の重要性
- 「いじめ未然防止」

2

## 自己〇〇感とは？

### ○自己肯定感

...自分の価値や存在意義を肯定できる感情

### ○自己存在感

...この集団に確かに存在しているという実感

### ○自己効力感

...やればできる力があるという実感、自信

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」等を参考に作成

3

4

## ○「自己有用感」について



# 自己有用感とは？

## 自己有用感

単なる自己肯定感や自己存在感ではなく、  
相手からの好意的な反応や評価があって  
感じることでできる自己の有用性のこと

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より

つまり、互いのよさを認めることで、  
自己有用感が生まれます。

5

例えば、

自己理解・他者貢献意識・自己決定

僕、苦手なこともあるけど、掃除は得意なんだ。  
みんなのために、掃除を頑張るよ。

掃除が得意なんて、すばらしいわ。  
いつも、自分のことだけでなく、  
みんなのために活動してくれて、  
ありがとう。私も掃除、頑張るわ。

肯定的な自己評価

他者理解・肯定的な他者評価

自己有用感

7

# 自己有用感とは？

## 自己有用感の特徴

- ・「自己肯定感」や「自尊感情」と違い、  
人と関わることの喜びや大切さに気付いて  
いくこと、相手との関わりがなければ、  
生まれてこないこと。

6

## 自己有用感が高まると....

自分が社会の一員であることを自覚するので

○規範意識が醸成される

いじめの原因となる生徒のストレスが生まれにくくなるので

○いじめが発生しにくくなる

生徒の居場所づくりにつながるので

○不登校の未然防止につながる

8

## 本校の生徒の実態

○「自分を大切に思っています。」

(自己肯定感、自己受容)

… ○%

○「自分のことを分かってくれる人がいます。」

(自己に対する他者からの受容感)

… ○%

○「人から受け入れられていると思います。」

(自己に対する学級からの受容感)

… ○%

「自己肯定感」や「他者からの受容感」は、○○。

9

## 本校の生徒の実態

○「人の役に立ちたいと思っています。」

(他者貢献意識)

… ○%

○「係や委員会など、責任を持って

自分の仕事に取り組んでいます。」(責任感)

… ○%

「他者貢献意識」や「責任感」は、○○。

10

## 本校の生徒の実態

○「人の役に立っていると思います。」

(自己有用感)

… ○%

○「自分のことを必要としてくれる人がいます。」

(自己有用感)

… ○%

他者から認められているという実感は、○○。  
自己有用感は、○○。

11

互いに認め合うことで、  
自己有用感が高まりますが、  
ここでちょっと考えてください。

「褒める」と「認める」

の違いは何でしょう？



12



## 「褒める」と「認める」の違い

### 褒める

**相手側の基準**で一定の水準に達した、水準を超えたと評価してもらう行為。

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より

### 認める

**自分なりのこだわりで努力したり工夫したりしたことなど、自分の決めた基準**で一定の水準に達した、水準を超えたと評価してもらう行為。

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より

行事や学習に取り組む際に、子ども自身に目標や工夫する点、努力する点などを考えさせておき、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが、「認める」という行為では重要。それが、「自己有用感」を育む。



13

## 「居場所づくり」と「絆づくり」の違い

### 居場所づくり

**教職員**が、児童生徒が安心できる、自己存在感や充実感を感じられる場所をつくりだすこと

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より

### 絆づくり

**生徒自ら**が、主体的に取り組む共同的な活動を通して、「絆」を感じ取り、紡いでいくこと

国立教育政策研究所「生徒指導リーフ」より

教師の役割は、児童生徒に代わって「絆づくり」を進めてあげることではなく、生徒主体の「絆づくり」ができるような「場」や「機会」を準備することです。



14

## 考えてみましょう！

2～3人組で、互いのよさを認め合える、どんな場面、取組があるか、話合ってみましょう。

①例えば、朝の会、給食、清掃、帰りの会では？

②例えば、授業中では？ 行事では？ 部活動では？

15

16

## ○「認め合う場の設定」の重要性

## 「認め合う場」の設定の例

- 帰りの会で日直が、「明日の日直の良いところ」を発表し、次々につなげていく、「良いところ探しリレー」
- クラスに「いいねボックス」を設置し、友達の良いところを書いて入れ、1週間ごとに発表する
- 部活動の終わりのミーティングで、チームのために頑張った人を発表し、その日の練習を終わりにする。

17

## 「認め合う場」の設定の例



18

## いじめ追跡調査から【暴力を伴わないいじめ】

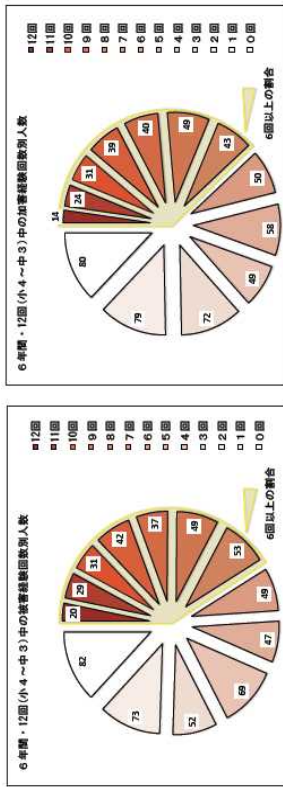


図1 2007年度小学4年生が中学3年までの6年間12回にわたる調査時点中に「仲間はずれ・無視・陰口」を経験したと報告した回数(被害・加害)  
出典：国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター『いじめ追跡調査 2010-2012』平成25年、10ページ

- いじめを、被害・加害の両面から経験している子どもは多数いる。
- どの子どもにも起こりうる。

19

20

○「いじめ未然防止」

# いじめの定義について

## 旧来の定義

- 「①自分より弱い者に対して**一方的に**、  
②身体的・心理的な攻撃を**継続的に**加え、  
③相手が**深刻な**苦痛を感じているもの。  
なお、起こった場所は学校の内外を問わない。」

いじめ防止対策推進法（概要）より

いじめに対する危機意識向上につながらないという指摘

平成18年度～

『発生件数』

『認知件数』

## 「いじめ認知」の実態

文科科学省  
「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題  
に関する調査結果」（平成26年度実施・  
H27.10月公表データ）より

都道府県別認知件数

1000人当たりの認知件数

2.8人

85.4人

30倍もの差

群馬県は本調査で10.1人

文科科学省の指示

法律に基づく、いじめの定義を再確認し、  
**いじめの積極的な認知に努めてもらいたい。**  
「いじめを初期段階のものを含めて積極的  
に認知し、その解消に向けたスタートライ  
ンに立っている」と極めて肯定的に評価す  
る。いじめを見ようとする積極的な姿勢が  
見られると評価する。

# いじめの定義について

## 18年度からの新定義

「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍  
している等当該児童生徒と

**一定の人的関係にある他の児童生徒が行う**

**心理的又は物理的な影響を与える行為**

（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、

当該行為の対象となった

**児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」**

いじめ防止対策推進法（概要）より

- （注1）「一定の人的関係のある者」とは、学校の内外を問わず、例えば、同じ学校・学級や部活動の者、当該児童生徒が関わっている仲間や集団（グループ）など、当該児童生徒と団体的な人間関係のある者を指す。  
（注2）「攻撃」とは、心理的な圧迫などで相手と協調を失わせるものを含む。例：仲間による無視」など  
（注3）「物理的な攻撃」とは、身体的な攻撃のほか、物品を投げつける、蹴られることなどを意味する。  
（注4）けんか等を除く。

国立教育政策研究所 生徒指導リサーチ（Leaf11）「いじめの『認知件数』より

| いじめの認知件数（単位：人） |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 都道府県           | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 | 小・中・高 |
| 北海道            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 青森県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 岩手県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 宮城県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 秋田県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 山形県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 福島県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 茨城県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 栃木県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 群馬県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 埼玉県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 千葉県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 東京都            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 神奈川県           | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 新潟県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 富山県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 石川県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 福井県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 山梨県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 長野県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 岐阜県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 静岡県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 愛知県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 三重県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 滋賀県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 京都府            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 大阪府            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 兵庫県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 奈良県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 和歌山県           | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 徳島県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 香川県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 愛媛県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 高知県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 福岡県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 佐賀県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 大分県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 熊本県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 鹿児島県           | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |
| 沖縄県            | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 | 1,000 |

## 「いじめ認知」の実態

上毛新聞掲載記事【H27.10.28付】

### 県内公立校

いじめ認知件数 2000件超  
14年度再調査当初の3倍に

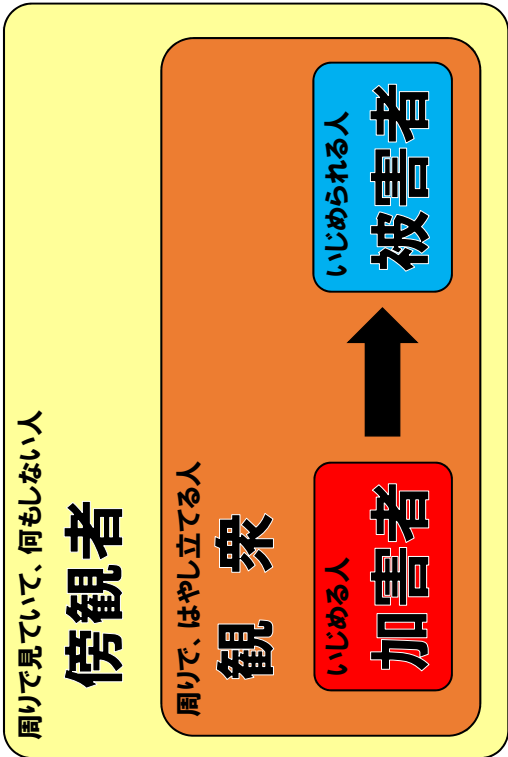
いじめ認知件数は、県内公立校で14年度再調査当初の3倍に増加した。県教委は、いじめ認知件数の増加を背景に、いじめ防止対策推進法（平成26年度実施）に基づき、いじめの定義を再確認し、いじめを初期段階のものを含めて積極的に認知し、その解消に向けたスタートラインに立っている」と極めて肯定的に評価する。いじめを見ようとする積極的な姿勢が見られると評価する。

異例の再調査

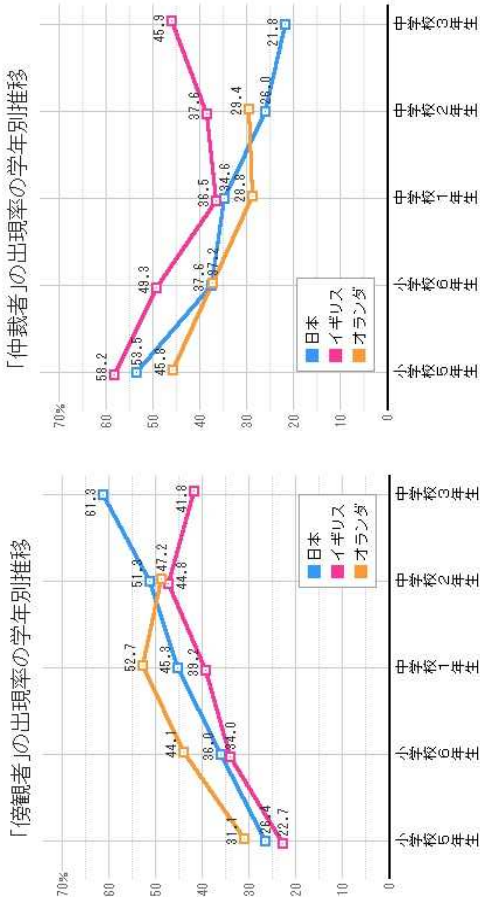
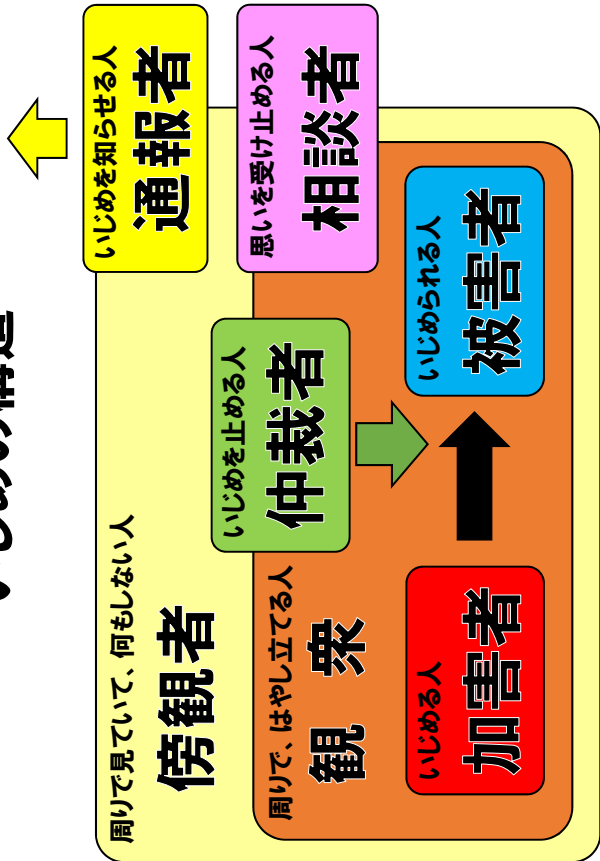
見過ごされがちな軽微なものも、いじめの定義を踏まえ、適切に認知し、継続で早期発見・早期解消を図るべきだという、いじめに対する意識改革を求めた。

# いじめの4層構造

「いじめ」は、  
どんな理由があろうとも、  
許されることはありません。



## いじめの構造



## 今日の振り返り

- 「自己有用感」について
- 「認め合う場の設定」の重要性
- 「いじめ未然防止」

## 第2章

# 3年間を見通した学級活動計画表



学校行事や生徒指導に関する  
学年、学期ごとの学級活動例 単元名一覧表です。



# 第1章 互いに認め合う授業づくりに向けて

互いに認め合う授業づくりに向けて

話し合い活動の基本的な活動過程

学級活動で自己有用感を高める手立て

校内研修資料

## 第2章 3年間を見通した学級活動計画表

| 学期   | 1学期          | 2学期         | 3学期         |
|------|--------------|-------------|-------------|
|      | 学校行事・学級活動    | 学校行事・学級活動   | 学級活動        |
|      | 生徒指導         | 生徒指導        |             |
| 3年   | 自己理解<br>他者理解 | 合唱<br>コンクール | 感謝の手紙       |
|      | 陸上記録会        | 進路学習        |             |
| 2年   | 自己理解<br>他者理解 | 合唱<br>コンクール | 3年生に<br>向けて |
|      | 陸上記録会        | 進路学習        |             |
| 1年   | 自己理解<br>他者理解 | 合唱<br>コンクール | 2年生に<br>向けて |
|      | 陸上記録会        | 進路学習        |             |
| 学級活動 | 携帯電話の<br>使い方 | いじめ<br>未然防止 |             |
|      |              | いじめ<br>未然防止 |             |
|      |              | いじめ<br>未然防止 |             |

夏休み

冬休み

## 第3章 話し合いの仕方ガイドブック

話し合いの流れ

アイデアを出す  
方法

アイデアをまとめる  
方法

話し合いの人数

授業デザインの  
仕方

## 第4章 チームになろうシート

## 第5章 コミュニケーションスキルの向上シート

概要説明

アイスブレイク

ソーシャルスキル

アサーション

エンカウンター

## 第3章

# 話合いの仕方ガイドブック



1. 「話合いの流れ」について
2. アイデアを出す方法（発散の方法）
3. アイデアをまとめる方法（収束の方法）
4. 「話合いの人数」について
5. 授業デザインの仕方

「ジグソー法」や「ワールド・カフェ」などの「話合いの流れ」。付箋紙やホワイトボード、ワークシートなどを使った、「アイデアを出す方法」や「アイデアをまとめる方法」など、生徒による主体的な活動を導き出す、話合いの方法を紹介しています。

生徒による主体的な話し合い活動を進めるために、計画委員（話し合いを中心となつてすすめる生徒）の生徒と一緒に、授業の流れについて打合せを行いましょう。

## 1. 「提案理由」と「議題」を決める

教師の投げ掛け（学級目標、合唱コンクールの目標など、集団で目指すゴールを設定する投げ掛け）や、議題ポストなどの生徒の意見（係活動の充実、進路についての悩みなど、生活上の諸問題に対する改善策）から、「提案理由」と「議題」を決めます。

「提案理由」「議題」が決まったら、「話し合いの方法」や「人数」などを決めます。

## 2. 話し合いの「方法」を決める

「（１）話し合いの流れ」「（２）アイデアを出す（発散思考）方法」「（３）アイデアをまとめる（収束思考）方法」を考え、決めていきます。

### （１）話し合いの流れについて

①「個人」→「グループ」→「全体」の流れ

②「グループ」→「全体」の流れ

③「A グループ」→「B グループ」→「全体」の流れ

④ジグソー法

⑤ワールド・カフェ

### （２）アイデアを出す（発散思考）方法の例

①付箋紙

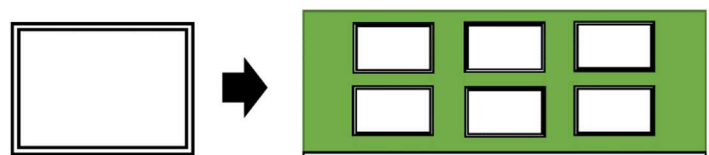
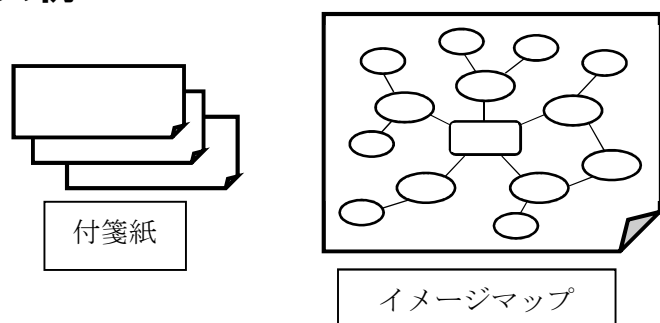
②ブレイン・ストーミング

③ブレイン・ライティング

④イメージマップ

⑤マンダラ

⑥マトリックス



ホワイトボードを黒板に掲示する話し合いの例

### (3) アイデアをまとめる(収束思考)方法の例

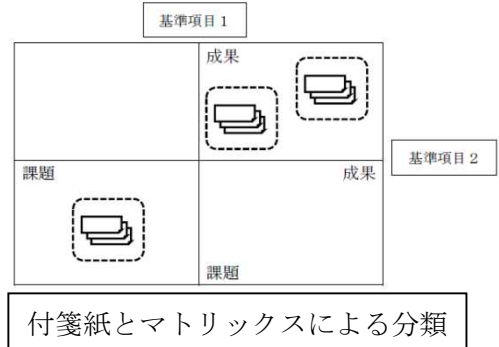
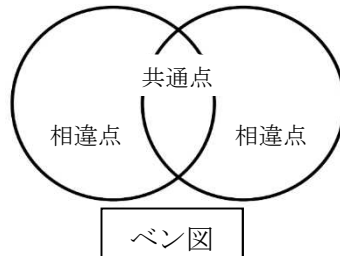
①カード整理

②マトリックスによる分類、分析

③クロス法

④フィッシュボーン法

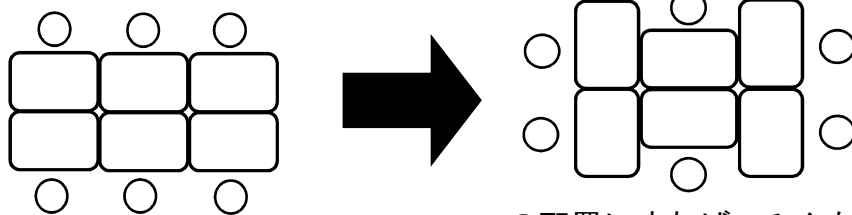
⑤ベン図



## 3. 話合いの「人数」を決める

## 4. 話合いの「机の形」を決める

意見交流の図りやすい話合いには、座り方も大切です。お互いの顔が見えると話しやすいですね。一般的な座り方だと…。



この配置にすれば、みんなの顔が見える。

## 5. 授業デザインの仕方

計画委員の生徒と考えた授業の流れについて、「授業デザインシート」で確認し、「司会カード」を使って話合いを進めると、生徒が見通しを持つことができるので、スムーズに話合いを進めることができます。

・計画委員と一緒に準備する「話し合い授業デザインシート(教師用)」

### 話し合い授業デザインシート

月日 10/6 (木) 学年・教科 3年・学級活動 授業者 ○○ ○○

目的 クラスの合唱をより良く(すばらしく)するため **提案理由**

課題 **合唱コンクールの練習方法(作戦)について** **議題**

(導入) 発問とビデオ視聴 (10分)

(展開) **話し合いの方法と「流れ」**

話し合いの方法 人数 机の形  
前半、後半グループによる 6人 □□□□  
2段階での話し合い □□□□

第1グループ(パートごと) (15分)  
「合唱の良い点と改善点」について  
6人 × 6班

**時間の設定**

第2グループ(新しいグループ) (15分)  
「改善点を克服するための練習方法(作戦)」について  
6人 × 6班

(まとめ)まとめる方法  
グループの代表者が話合った結果を発表し、全体で共有した後、実践することを目指す。(10分)

・計画委員と一緒に準備する「司会カード(生徒用)」

### 話し合い 司会カード

10月6日(木) 5校時 3年3組 (学級活動)

①今日は、**提案理由**  
「**クラス合唱をより良く(すばらしく)する**」ために  
「**合唱コンクールの練習方法(作戦)**」について話し合います。 **議題**

②今日の流れですが、**話し合いの方法と「流れ」**  
・最初に、「**パートごとのグループ**」で、  
「歌の良かった点、改善点」について、  
「**班の意見**」をまとめてもらいます。「15時00分までです。」  
・次に、「**新しいグループ**」になります。  
そして、初めの話し合いの結果(歌の良かった点、改善点)を報告します。  
それをもとに  
「改善点を克服するための練習方法(作戦)」について  
「**班の意見**」をまとめてもらいます。「15時20分までです。」  
・最後に、「**みんな**」で、「**班が出た意見**」を確認します。 **時間の設定** 何か質問はありますか？

③先生、何かお話しはありますか？

④それでは、始めて下さい。 ～ 話し合いが終わったら ～

⑤みんなが話し合ったことを、確認します。「○ ○ ○ ○ ○。」

⑥先生、何かお話しはありますか？

⑦みんなが考えたことを、みんなで実行できるようにしていきたいと思います。

## 第4章

# チームになろうシート

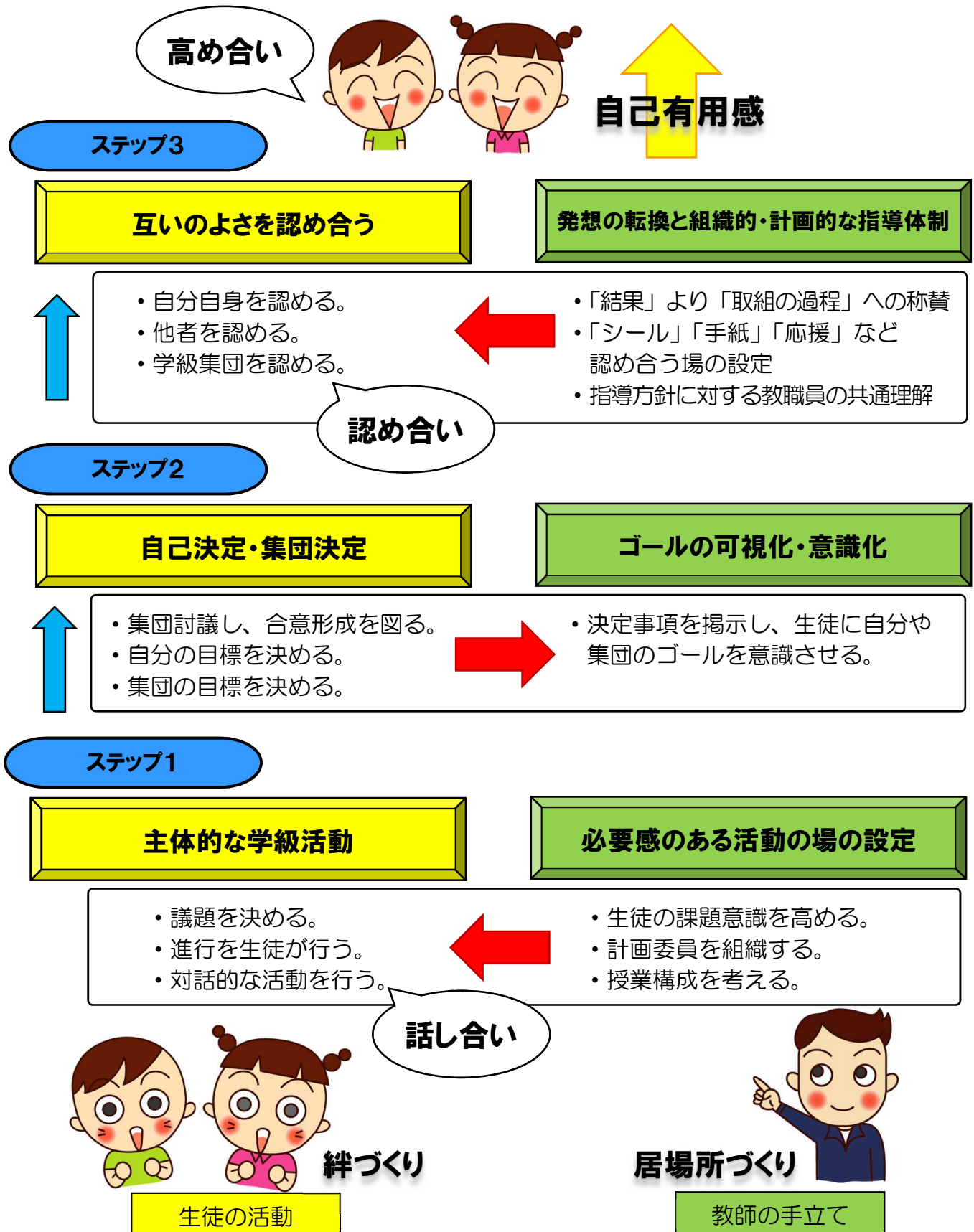


- 学校行事・学級活動
  - 1. 自己理解・他者理解
  - 2. 陸上記録会
  - 3. 合唱コンクール
  - 4. 進路学習
  - 5. 来年度に向けて
- 生徒指導
  - 6. 携帯電話の使い方
  - 7. いじめ未然防止

生徒の「自己有用感」を高める、学級活動で使えるワークシート集です。

# 学級活動で自己有用感を高める手立て

(話し合い、認め合い、高め合い)





## ステップ1

## 主体的な学級活動

学校の教育活動の中で、生徒の自己有用感を高めるためには、学級活動の時間の活用が非常に有効です。なぜなら、学級活動の時間には、自己決定、集団決定の場面、自分の役割を決める場面や、それらを振り返る場面があり、生徒が互いを認め合える場面がたくさんあるからです。しかし、これらの活動は、生徒が意識して取り組まないと（教師が意識して、その活動の場面を設定しないと）、有効な時間にはなっていきません。生徒の主体的な、対話的な学級活動を進めていくために、次のことを考えていきましょう。

## ・生徒の目標や課題に対する意識を高める

生徒が、学校行事などの目標に向かったり、自分たちの集団生活の向上を意識して、普段から生活したりするために、教師は、そのきっかけを作っておく必要があります。例えば、

## ①「目標」の設定の提示

- ・「学級目標」「合唱コンクールの目標」など、学期の始めや学校行事に取り組む際に、集団で目指すゴールを設定する投げ掛け

## ②「望ましい生活」を目指すための提示

- ・「係活動の充実」「進路についての悩み」など、生活上の諸問題に対して、改善策を学級で考える投げ掛け

などがあります。これらを生徒に投げ掛け、生徒が議題を提案しやすい環境づくりを行います。生徒からの提案は、「普段の会話」の中から出てくることもあります。学級に「議題ポスト」を設置するなどといった取組も有効です。

普段から、このような工夫をしておくことで、生徒が自分たちの生活に対して、意識を高めることにつながります。

## ・計画委員会を組織する

生徒主体の学級活動を進めていくためには、生徒が中心となって、話し合いを進めていく必要があります。そのために、計画委員会を組織しましょう。計画委員は、担任の先生と一緒に、「議題」や「提案理由」、「話し合いの仕方」などを決め、学級活動の話し合いの準備をします。多くの生徒が経験できるように、輪番制にしても良いでしょう。輪番制が難しいという場合は、「希望者による計画委員会グループ」を組織しても良いかもしれません。



話し合いを進める計画委員

「生徒からの提案」や「議題ポスト」を活用して、学級の課題が明らかになったら、話し合いの進め方について、準備をします。会議の進行には、「自己有用感パワーアップガイド」の「話し合い授業デザインシート（教師用）」や「司会カード（生徒用）」を是非ご活用ください。以下は、「話し合い授業デザインシート（教師用）」「司会カード（生徒用）」を活用した授業実践例です。

・計画委員と一緒に準備する「話し合い授業デザインシート(教師用)」

# 話し合い授業デザインシート

学級活動では、「目的」は「提案理由」  
「課題」は「議題」

|  |  |                   |
|--|--|-------------------|
| 月日 10/6 (木)<br>校時 5 校時   | 学年・教科 3 年・学級活動                                 | 授業者 ○○ ○○         |
| 目的 クラスの合唱をより良く(すばらしく)するため  | 提案理由   |                   |
| 課題 合唱コンクールの練習方法(作戦)について  | 議題   |                   |
| (導入) 発問とビデオ視聴 (10分)  |  |                   |
| (展開)   |  |                   |
| 話し合いの方法<br>前半、後半グループによる<br>2段階での話し合い   | 人数<br>6 人                                      | 机の形<br>□□□<br>□□□ |
| 第1グループ (パートごと) (15分)<br>「合唱の良い点と改善点」について<br>6 人 × 6 班                          | 留意点<br>○相手の意見を否定せず、受け入れることを話し合いの前に確認する。        |                   |
| 時間の設定<br><br>第2グループ (新しいグループ) (15分)<br>「改善点を克服するための練習方法 (作戦)」について<br>6 人 × 6 班 | 留意点<br>○第1グループ終了時に、番号を決めておくと、第2グループの活動に移動しやすい。 |                   |
|  | 支援の「留意点」を記入する。                                 |                   |
| (まとめ) まとめの方法<br>グループの代表者が話し合った結果を発表し、全体で共有した後、実践することを決める。(10分)                 |  |                   |

「時間の目安」  
「グループの形式」などを記入する。

# 話し合い授業デザインシート

|  |           |       |     |
|--|-----------|-------|-----|
| 月日<br>校時   | ( )<br>校時 | 学年・教科 | 授業者 |
| 目的   |           |       |     |
| 課題   |           |       |     |
| (導入) 発問  |           |       |     |
| <div> <div>(展開)</div> <div>話し合いの方法</div> <div>人数</div> <div>机の形</div> </div> |           |       |     |
| (まとめ)まとめの方法  |           |       |     |

・計画委員と一緒に準備する「司会カード(生徒用)」

## 話し合い 司会カード

10月6日(木) 5校時 3年3組 (学級活動)

### 提案理由

①今日は、

「**クラスの合唱をより良く(すばらしく)する**」ために

「**合唱コンクールの練習方法(作戦)**」

について話し合います

### 議題

②今日の流れですが、

話し合いの「方法」と「流れ」

・初めに、「**パートごとのグループ**」で、

「歌の良かった点、改善点」について、

「班の意見」をまとめてもらいます。「15時00分までです。」

・次に、「**新しいグループ**」になります。

そして、初めの話し合いの結果(歌の良かった点、改善点)を報告します。

それをもとに

「改善点を克服するための練習方法(作戦)」について

「班の意見」をまとめてもらいます。「15時20分までです。」

・最後に、「**みんな**」で、「班で出た意見」を確認します。

何か質問はありますか？

③先生、何かお話はありますか？

### 時間の設定

④それでは、始めてください。

～ 話し合いが終わったら ～

⑤みんなで話し合ったことを、確認します。「○ ○ ○ ○ ○。」

⑥先生、何かお話はありますか？

⑦みんなで考えたことを、みんなで実行できるようにしていきましょう。

話し合いの方法については、「話し合いの仕方ガイドブック」も参考にしてください。

# 話し合い 司会カード

月 日 ( ) 校時 年 組 ( )

①今日は、

「

」ために

「

」

について話し合います。

②今日の流れですが、

何か質問はありますか？

③先生、何かお話はありますか？

④それでは、始めてください。

～ 話し合いが終わったら ～

⑤みんなで話合ったことを、確認します。「○ ○ ○ ○ ○。」

⑥先生、何かお話はありますか？

⑦みんなで考えたことを、みんなで実行できるようにしていきましょう。

## ステップ2

## 自己決定・集団決定と可視化

自己有用感を高めるためには、自己決定や集団決定したものを可視化し、互いを認めやすい環境づくりを行うことが有効です。

下の資料は、「合唱コンクールに向けて、自分が頑張りたいこと」を自己決定し、「友達は、それに対して応援メッセージを送る」活動のワークシートです。

### 合唱コンクールでチームになろう！①

#### — 友達に応援メッセージを送ろう —

年 組 番 ( )

1. 自分の力を、どうクラスに生かしていくか考え、下の図の四角い吹き出しにセリフを書こう。

例 … 大きな声で歌う。

パートリーダーになって、音程を正確にとる。

2. 友達のよさを見付けて、下の図の丸い吹き出しにメッセージを書こう。

(4人グループで、順番に1を発表して、友達に応援メッセージを送る。

その他にも友達が頑張っていることがあったら、応援する。)

例 … ○○さん。歌が上手だから、自信を持って歌ってね。

○○さん。いつもみんなのことを考えてくれて、ありがとう。 など

3. 下の図を切って横造紙に貼り、教室に掲示しよう。

「自己決定」の場

「自己決定や集団決定したもの」、「認め合い」を可視化し、  
みんなで共有できる。

「他者から  
認められる」場





# 合唱コンクールでチームになろう！①

## ー 友達に応援メッセージを送ろう ー

年 組 番 ( )

### 1. 自分の力を、どうクラスに生かしていくか考え、下の図の四角い吹き出しにセリフを書こう。

例 … 大きな声で歌う。

パートリーダーになって、音程を正確にとる。

### 2. 友達のよさを見付けて、下の図の丸い吹き出しにメッセージを書こう。

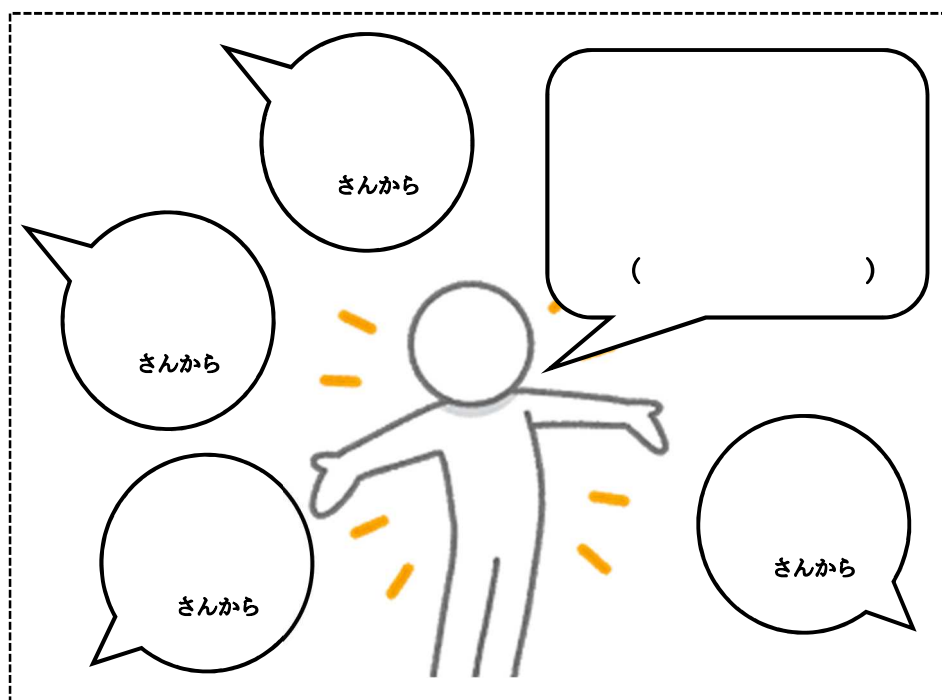
(4人グループで、順番に1を発表して、友達に応援メッセージを送る。

その他にも友達が頑張っていることがあったら、応援する。)

例 … ○○さん。歌が上手だから、自信を持って歌ってね。

○○さん。いつもみんなのことを考えてくれて、ありがとう。 など

### 3. 下の図を切って模造紙に貼り、教室に掲示しよう。



自分の名前を書きましょう。

# 合唱コンクールでチームになろう! ②

## — クラスのスローガンを作ろう —

年 組 番 ( )

1. 合唱コンクールに向けた、スローガンをグループで考えよう。

- ① グループになって、「クラスでこんな合唱コンクールにしたい。」と思い付いた言葉、文などをシートにどんどん書き込んでいこう。

○ブレイン・ストーミングの留意点

- (1) 思い付いた言葉、口から出た言葉、あまり考えずに、どんどん書いていく。(質より量)
- (2) 人の意見に対して、否定的なことを言わない。(批判厳禁)
- (3) 1人で長々と話さない。(演説禁止)

- ② ある程度メモが書けたら、書かれている言葉の中から、キーワードを選ぼう。

グループのキーワード

2. グループで出されたキーワードを発表し、それらの言葉を使ってクラスのスローガンを決めよう。

3. スローガンを、下の紙にみんなで1文字ずつ書いて模造紙に貼り、教室に掲示しても良いよ。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

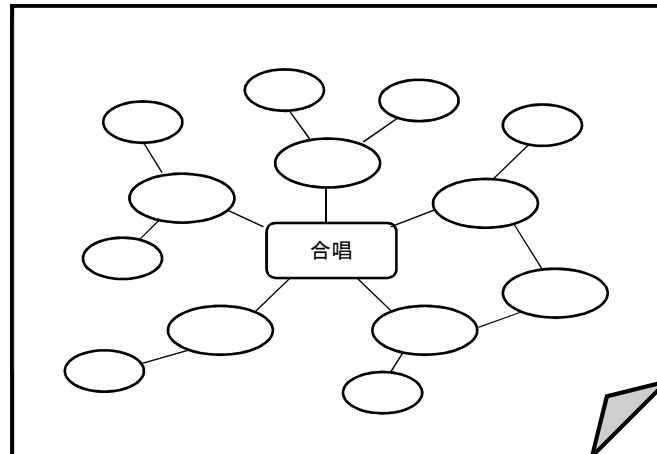
# 合唱コンクールでチームになろう！②

## － クラスのスローガンを作ろう －

年 組 番 ( )

1. 合唱コンクールに向けたスローガンを、イメージマップを使い、グループで考えよう。

- ① イメージマップシートを使い、グループのメンバーで、中央のテーマから連想したこと(クラスでこんな合唱コンクールにしたいと思いついた言葉、文など)をどんどんつなげていこう。



イメージ図

- ② ある程度メモが広がったら、書かれている言葉の中から、キーワードを選ぼう。

グループのキーワード

2. グループで出されたキーワードを発表し、それらの言葉を使ってクラスのスローガンを決めよう。

3. スローガンを、下の紙にみんなで1文字ずつ書いて模造紙に貼り、教室に掲示しても良いよ。

# 合唱コンクールでチームになろう！②

## — クラスのスローガンを作ろう —

年 組 番 ( )

### 1. 合唱コンクールに向けた、スローガンを4人グループで考えよう。

- ① クラスでこんな合唱コンクールにしたいと、自分が思い付いた言葉、文などを、下の四角に1つメモする。 例 … 絆 優勝 努力 協力 など
- ② 1つメモできたら、時計回りに回す。また、思い付いた言葉、文をメモする。  
(どうしても思い付かなかったら、回ってきたメモを見て、考えれば良いよ。)
- ③ ①、②を繰り返して、1周する。

|  |  |  |  |
|--|--|--|--|
|  |  |  |  |
|--|--|--|--|

- ④ 4つ書けたら、その中で、自分が良いと思ったものに☆をつけ、また、時計回りに回す。
- ⑤ ☆がたくさんついたものの中から、グループのキーワードを選ぶ。

グループのキーワード

### 2. グループで出されたキーワードを発表し、それらの言葉を使ってクラスのスローガンを決めよう。

|  |
|--|
|  |
|--|

### 3. スローガンを、下の紙にみんなで1文字ずつ書いて模造紙に貼り、教室に掲示しても良いよ。

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

下のワークシートは、「クラスの合唱をより良く（すばらしく）するために、合唱コンクールの練習方法（作戦）」を集団決定する活動のワークシートです。

下の資料は、「前半、後半グループによる2段階での話し合い活動」の実践例です。

必要感のあるテーマ

生徒が決めた話し合い

活動の流れ

全員の生徒が、役割と責任  
をもち活躍する場を設定

「可視化」・「意識化」

「集団決定」の場

## 合唱コンクールでチームになろう！③

みんなで作戦を立てよう

年 組 番 ( )

1. 合唱コンクールで、みんなの力を合わせるために、話し合いをして、作戦を立てよう。
2. 自分たちの練習の様子を映像で見よう。
3. 良かった点、改善した方が良い点をグループで2段階に分けて話し合おう。

### 話し合い①

・パートごとのグループになって、付箋紙やワークシートを使い、話し合いましょう。

|      |      |      |      |     |     |
|------|------|------|------|-----|-----|
| ソプラノ | ソプラノ | アルト① | アルト② | バス① | バス② |
|------|------|------|------|-----|-----|

・パートごとの新しいグループを作りましょう。

|                            |                            |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| グループ③<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ④<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ⑤<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ⑥<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|

・新しいグループに分かれたら、先程、話し合ったグループの意見を新しい他のメンバーに報告しましょう。

### 話し合い②

- ・報告が終わったら、すばらしい合唱ができるように、改善点を克服する練習方法（作戦）をグループで話し合いましょう。
- ・話し合いが終わったら、代表者が、これまでに出了意見を全体に発表しましょう。

4. グループで話し合った意見を、全体で確認しよう。

5. みんなで立てた作戦を、クラスに掲示しよう。そして、実行しよう。

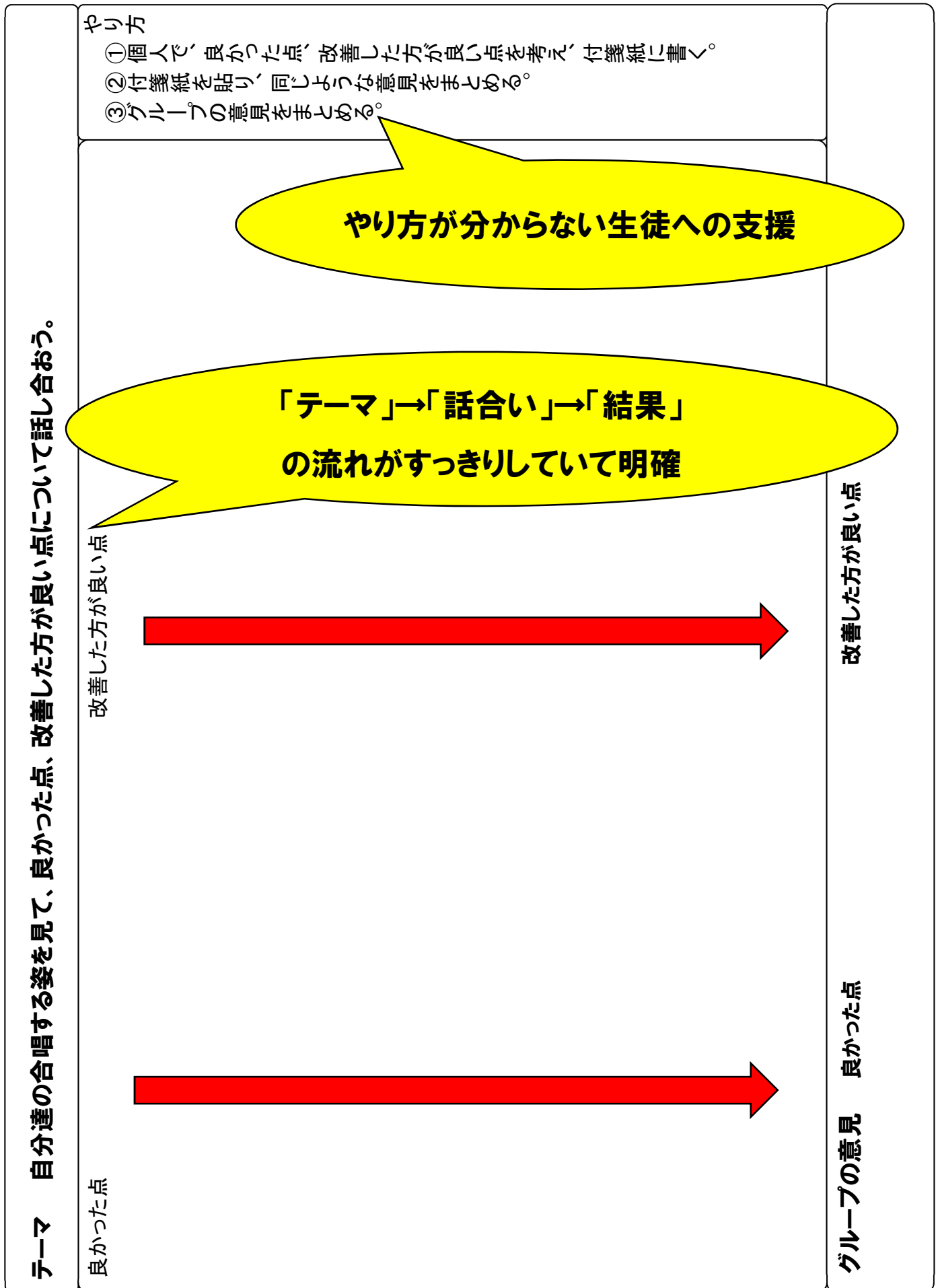
〇年〇組 合唱コンクール大作戦！

その1 50回歌う

その2 他のクラスと対抗戦をする

その3 みんなでアドバイスし合う

こんな感じで  
掲示しよう。





# 合唱コンクールでチームになろう！③

## － みんなで作戦を立てよう －

年 組 番 ( )

1. 合唱コンクールで、みんなの力を合わせるために、話し合いをして、作戦を立てよう。
2. 自分たちの練習の様子を映像で見よう。
3. 良かった点、改善した方がよい点をグループで2段階に分けて話し合おう。



### 話し合い①

- ・パートごとのグループになって、付箋紙やワークシートを使い、話し合いましょう。

|                       |                       |                  |                  |             |             |
|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|
| ソ<br>プ<br>ラ<br>ノ<br>① | ソ<br>プ<br>ラ<br>ノ<br>② | ア<br>ル<br>ト<br>① | ア<br>ル<br>ト<br>② | バ<br>ス<br>① | バ<br>ス<br>② |
|-----------------------|-----------------------|------------------|------------------|-------------|-------------|

- ・話し合いが終わったら、パートごとの新しいグループを作りましょう。

|                            |                            |                            |                            |                            |                            |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|
| グループ①<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ②<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ③<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ④<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ⑤<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス | グループ⑥<br>ソプラノ<br>アルト<br>バス |
|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|

- ・新しいグループに分かれたら、先程、話合ったグループの意見を新しい他のメンバーに報告しましょう。

### 話し合い②

- ・報告が終わったら、すばらしい合唱ができるように、改善点を克服する練習方法（作戦）をグループで話し合いましょう。
- ・話し合いが終わったら、代表者が、これまでに出了意見を全体に発表しましょう。

### 4. グループで話し合った意見を、全体で確認しよう。

### 5. みんなで立てた作戦を、クラスに掲示しよう。そして、実行しよう。

○年○組 合唱コンクール大作戦！

その1 50回歌う

その2 他のクラスと対抗戦をする

その3 みんなでアドバイスし合う

こんな感じで  
掲示しよう。



|  |  |
|--|--|
| <p><b>テーマ</b> 自分達の合唱する姿を見て、良かった点、改善した方が良い点について話し合おう。</p> | <div data-bbox="217 1906 256 2058">良かった点</div> <div data-bbox="217 954 256 1232">改善した方が良い点</div> <div data-bbox="217 159 1166 338"> <p>やり方</p> <p>① 個人で、良かった点、改善した方が良い点を考え、付箋紙に書く。</p> <p>② 付箋紙を貼り、同じような意見をまとめる。</p> <p>③ グループの意見をまとめる。</p> </div> |
|--|--|

### ステップ3

## 互いのよさを認め合う

自己有用感を高めるために、互いを認め合い、「自分は、クラスや友達の役に立てた。」という実感を高めていきましょう。

下の資料は、「マーク」や「手紙」で、互いを認め合う活動を行ったワークシートです。「結果」ではなく、「取組」を認めることで、生徒一人一人に認められる機会が生まれます。また、学級で決めたことを実行できたかどうかを振り返ることにより、生徒全員が認められます。他者から認められる経験は、自分自身を認めることへとつながっていきます。

**合唱コンクールでチームになれたかな？④**

— みんなの頑張りを認め合おう —

年 組 番 (                      )

1. 合唱コンクールに向けて、クラスで話合ったことを実行できていたか(みんなで頑張れたか)を考えよう。

- ・ 実行できていたら、「クラスで認め合うマーク」を掲示物に貼ろう。

**みんなのために活動してくれた  
友達に「感謝」の気持ちを伝える。**

**「結果」ではなく  
「取組」への称賛**


**人の役に立つことができた  
自分自身を認める。**

「                      」                      さんへ

チャンピオン

)より


クラスで認め合うマーク



友達から認められるマーク



自分を認めるマーク



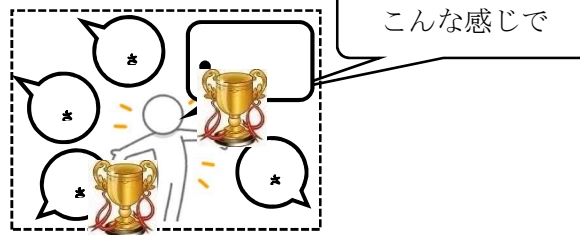
## 合唱コンクールでチームになれたかな？④

### — みんなの頑張りを認め合おう —

年 組 番 ( )

1. 合唱コンクールに向けて、クラスで話合ったことを実行できていたか(みんなで頑張れたか)を考えよう。

- ・ 実行できていたら、「クラスで認め合うマーク」を掲示物に貼ろう。



2. 合唱コンクールに向けて、自分で決めたことを実行できていたかを考えよう。

- ・ 4人グループで、掲示されている友達の目標を見て、友達が頑張っていたら、「友達から認められるマーク」を貼ってあげよう。
- ・ 自分の目標を見て、頑張っていたら「自分を認めるマーク」を貼ろう。

3. 友達が合唱コンクールで頑張っていたことを見付けよう。

- ・ 4人グループで、メッセージを書く相手を決める。友達が合唱コンクールで頑張っていたことを見付け、「〇〇」チャンピオンとし、相手の名前とメッセージを書き、ハサミで切る。きれいに切れたら、心を込めて、相手に渡す。

|             |     |
|-------------|-----|
| 「<br>チャンピオン | さんへ |
| メッセージ       |     |
| ( )より       |     |

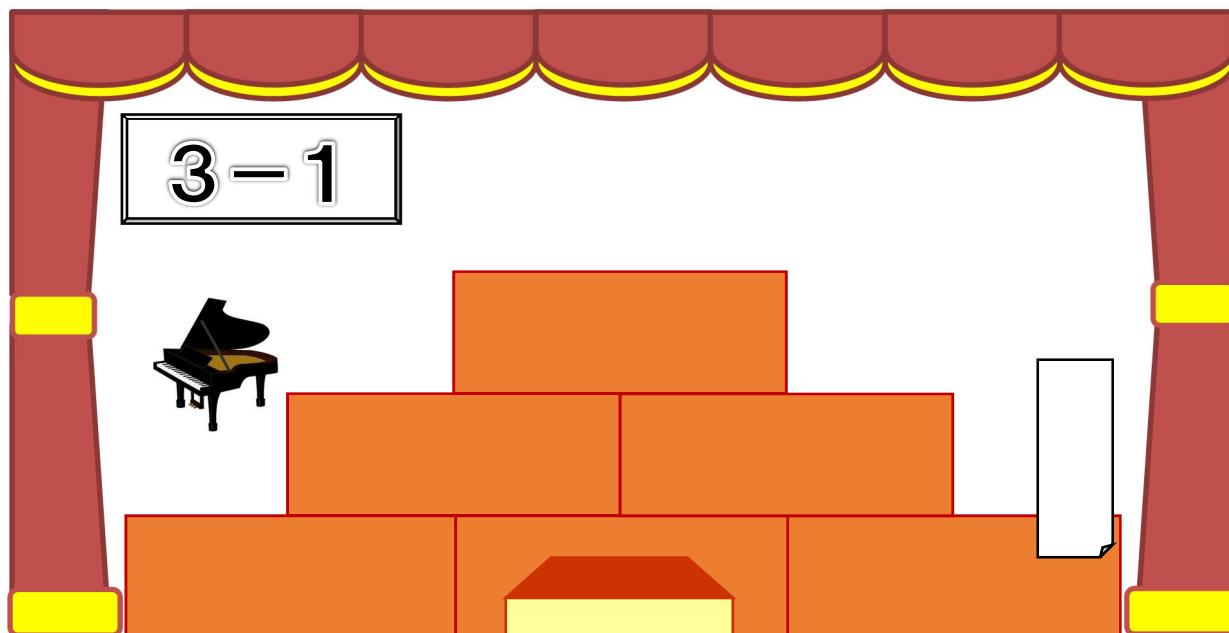
クラスで認め合うマーク

友達から認められるマーク

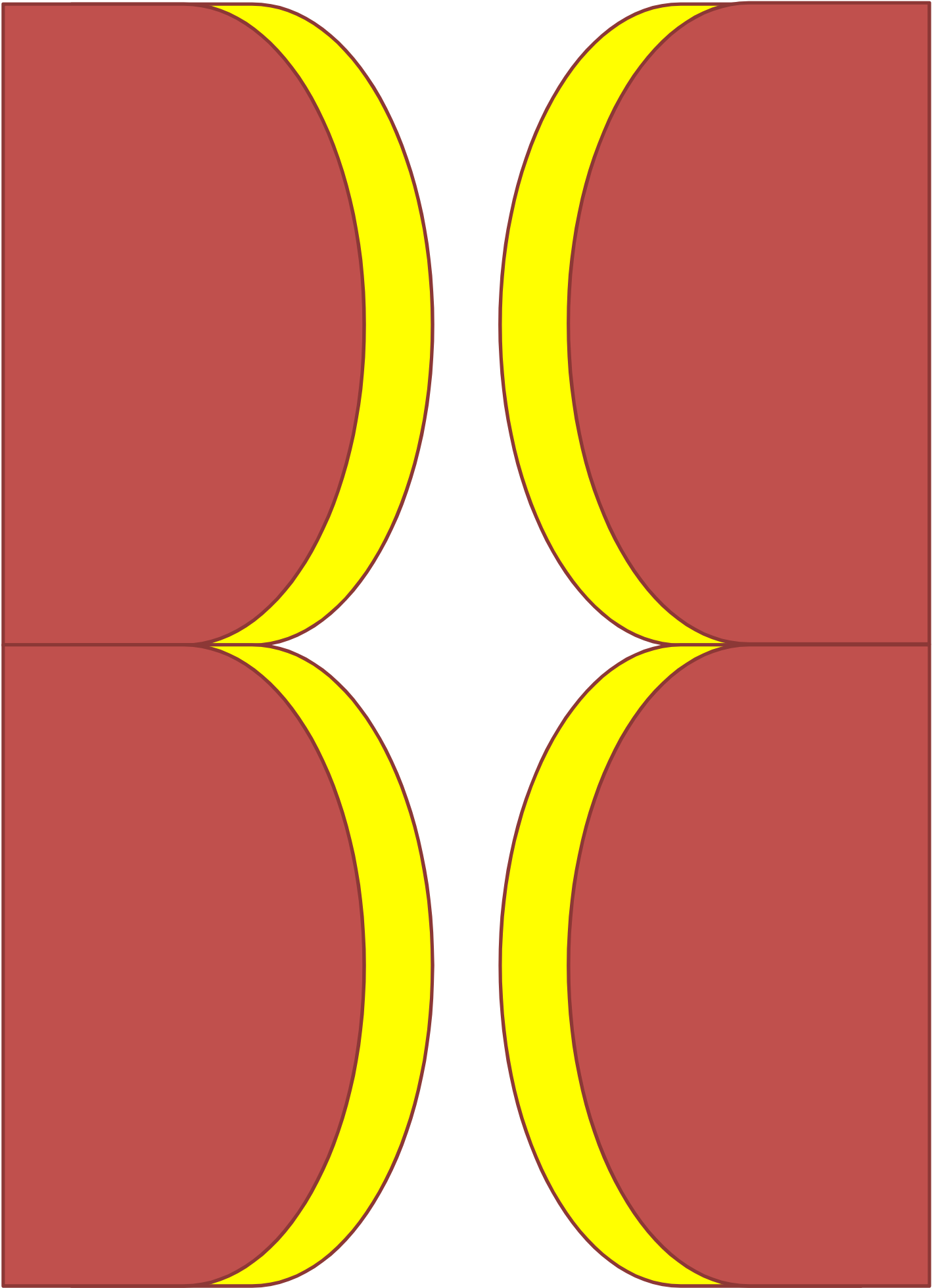
自分を認めるマーク

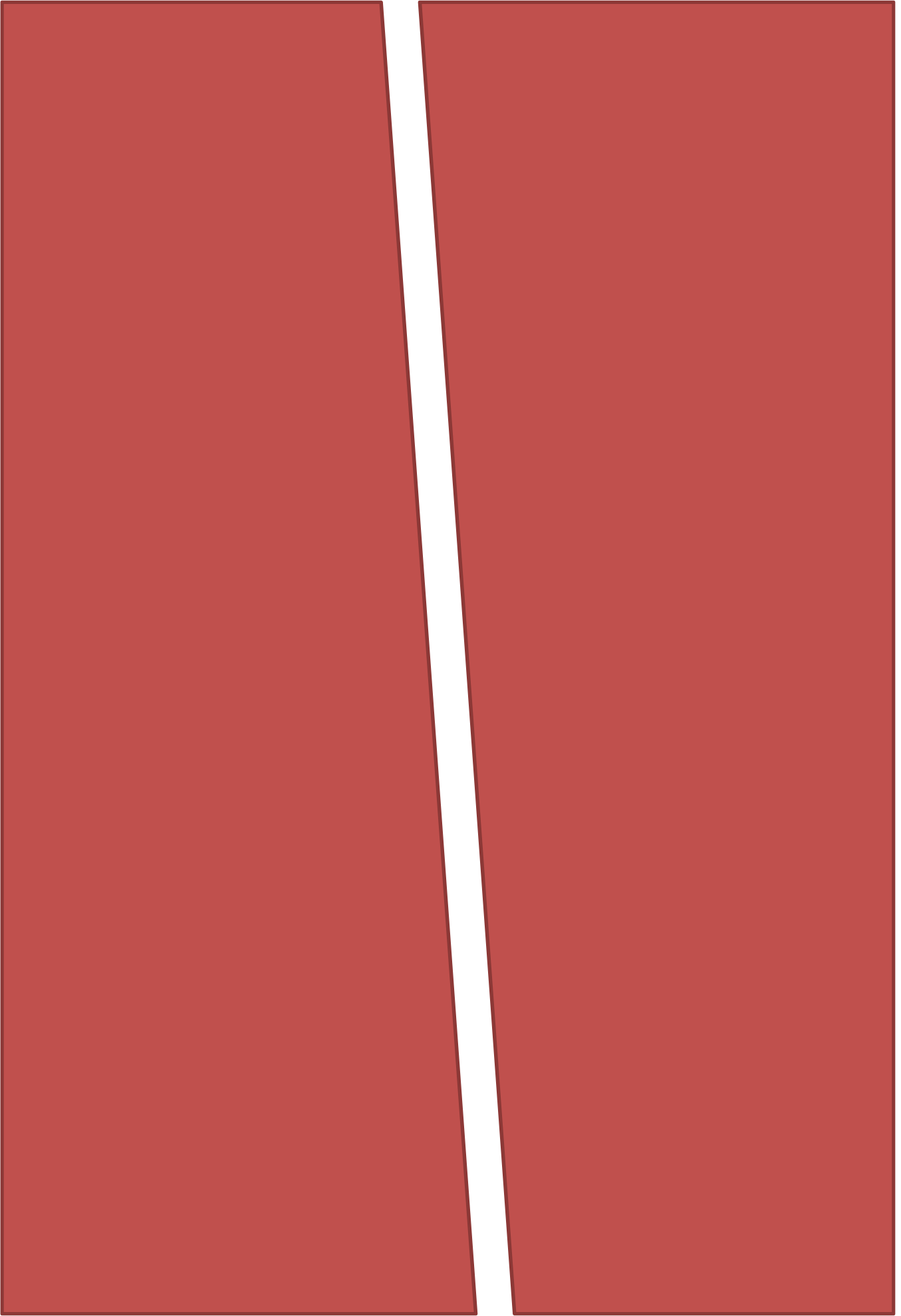


# 合唱コンクールの掲示物

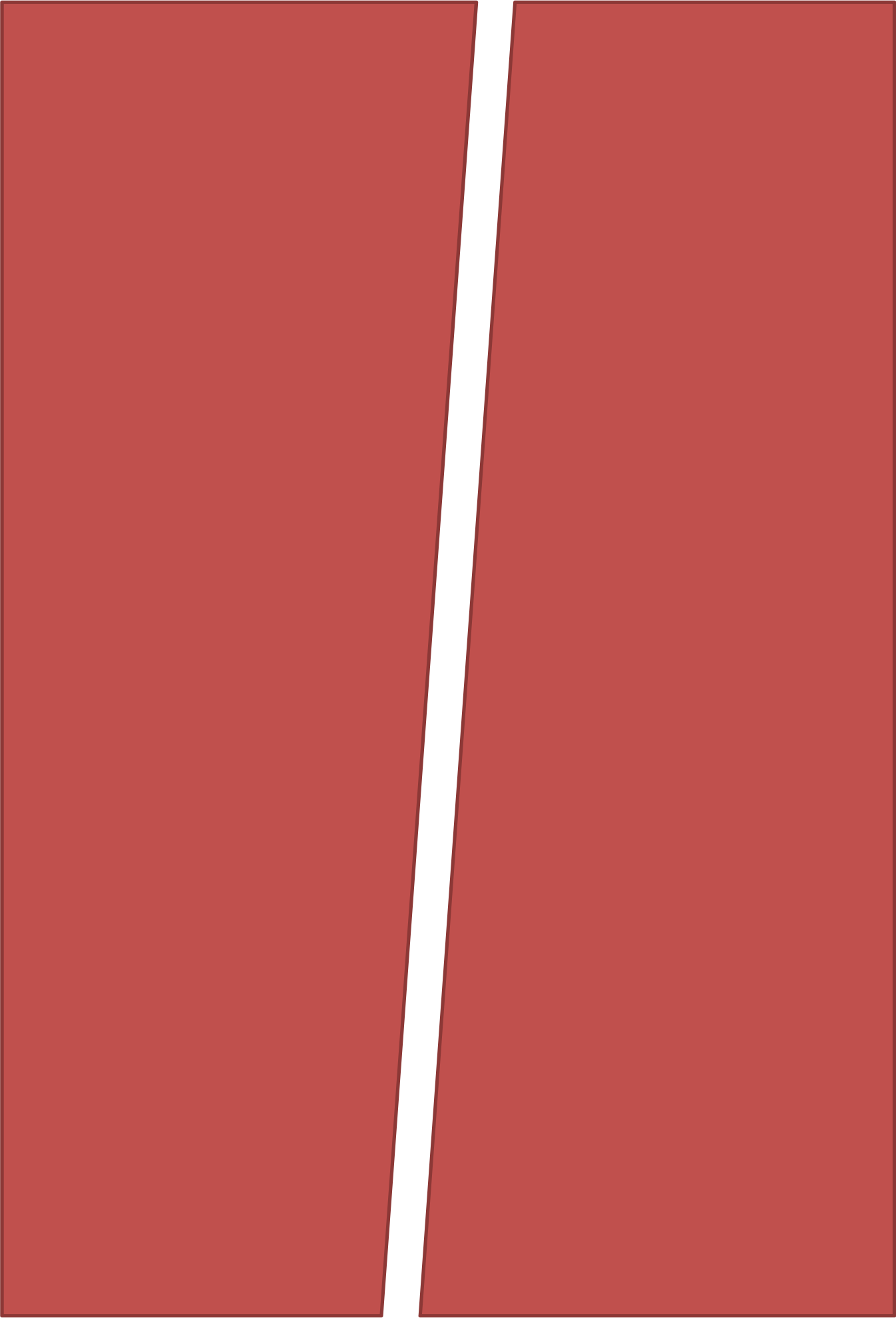


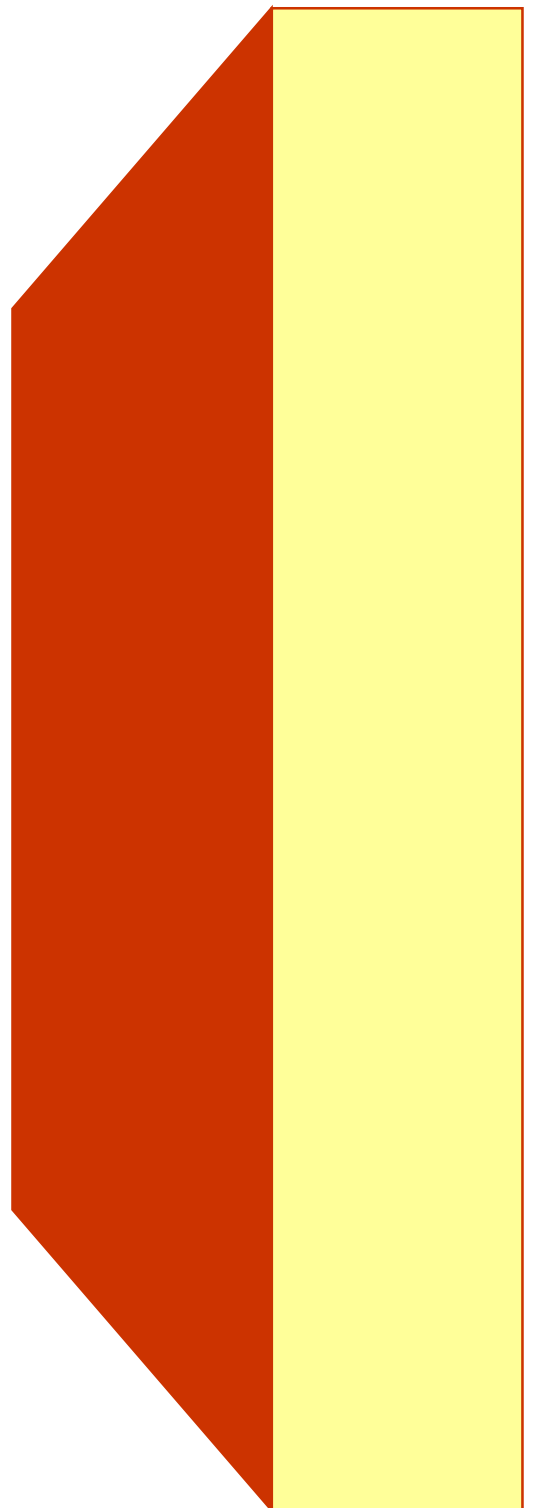
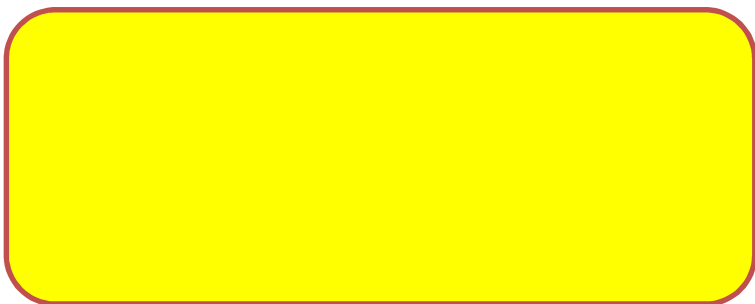
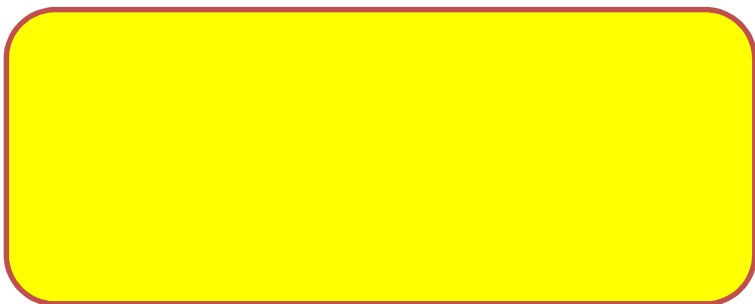
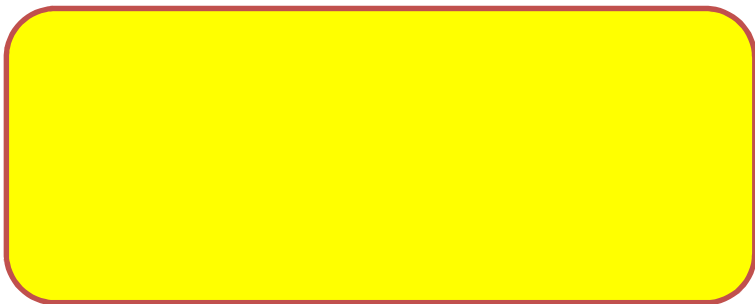
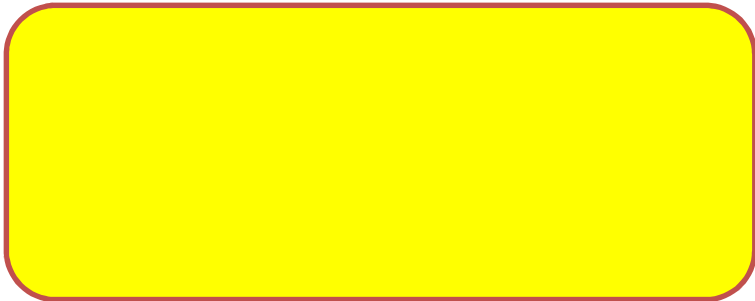
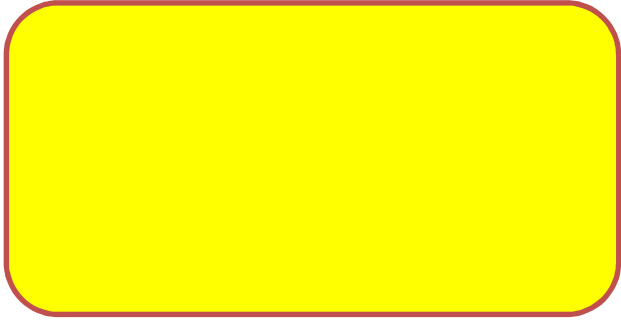
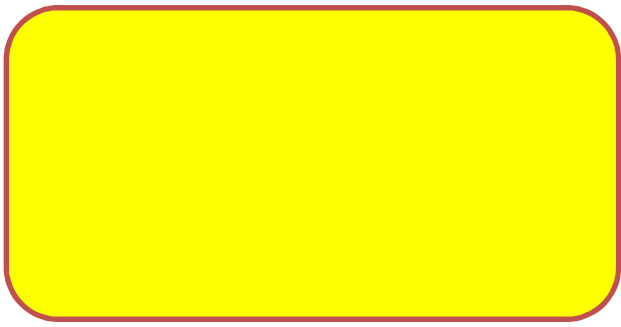
以下のページを印刷し、組み合わせて模造紙に貼ると、合唱コンクールの掲示物ができあがります。

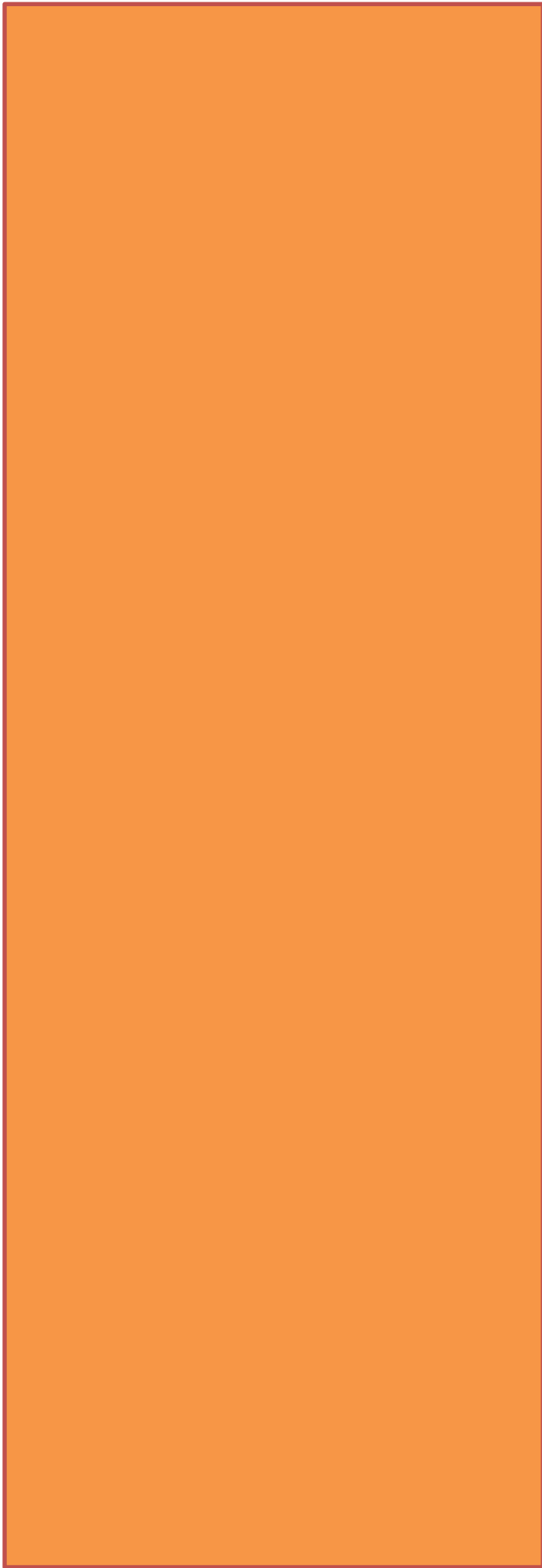
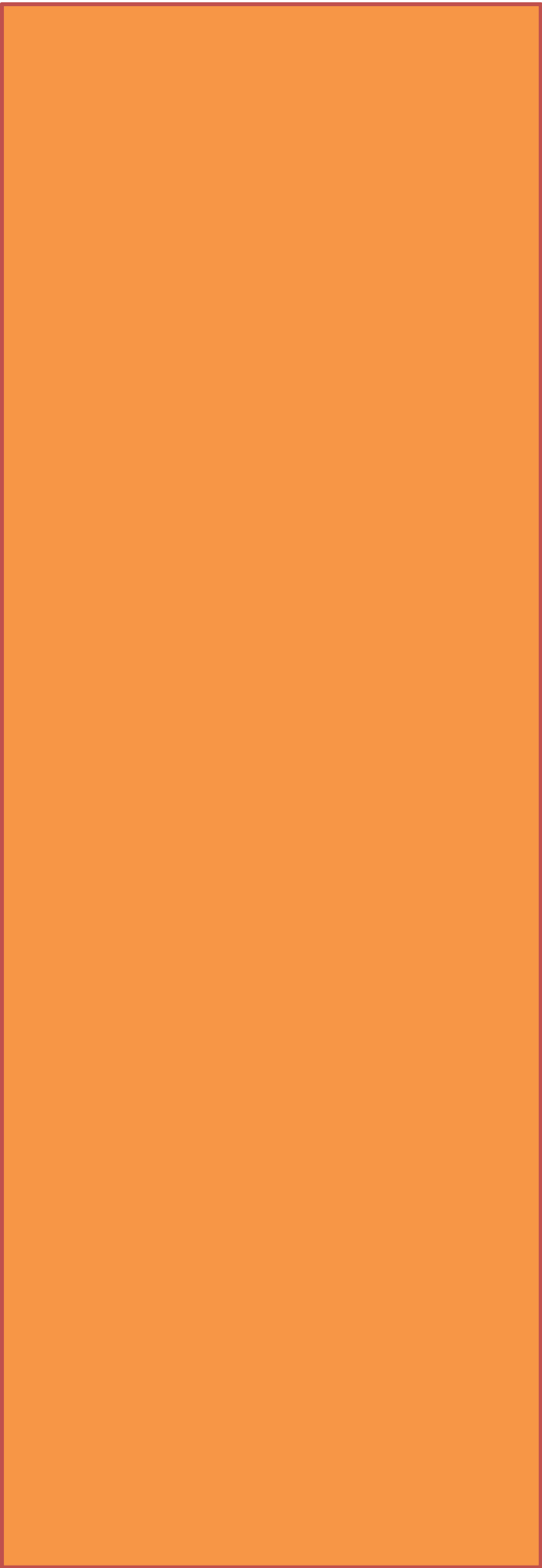


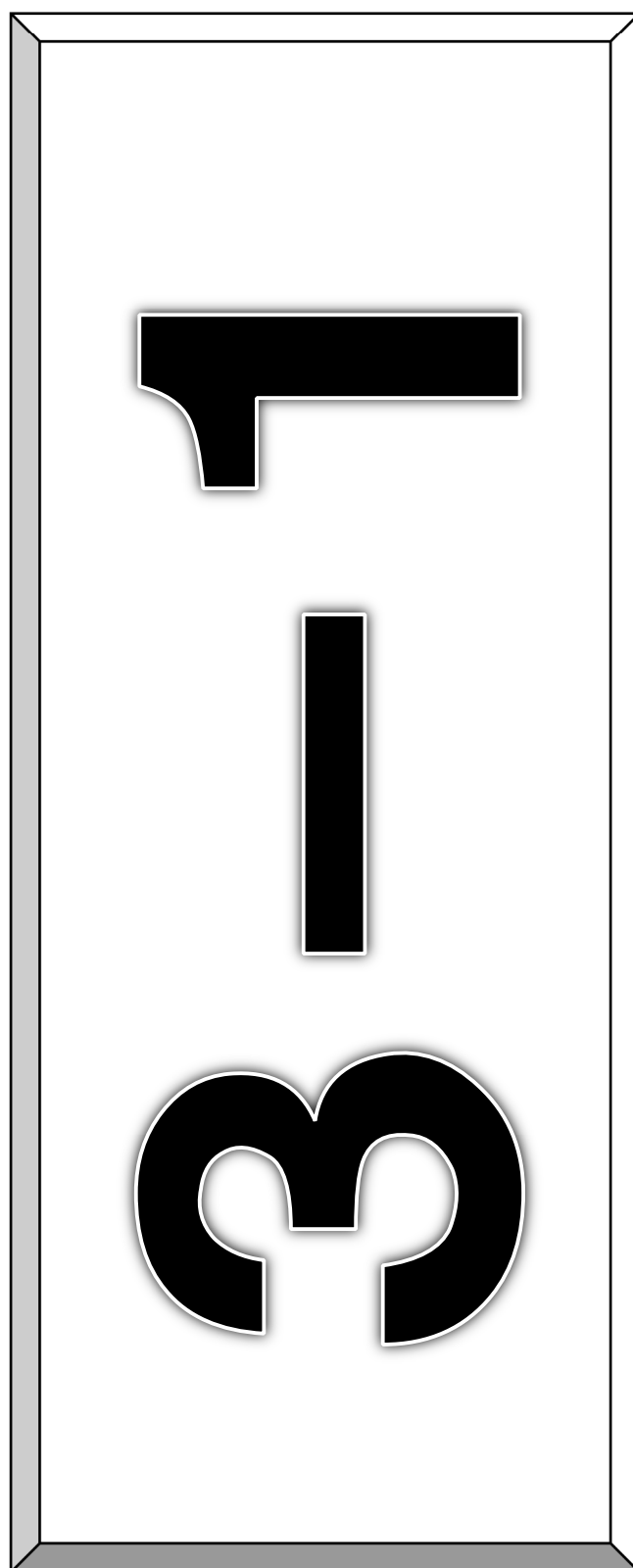
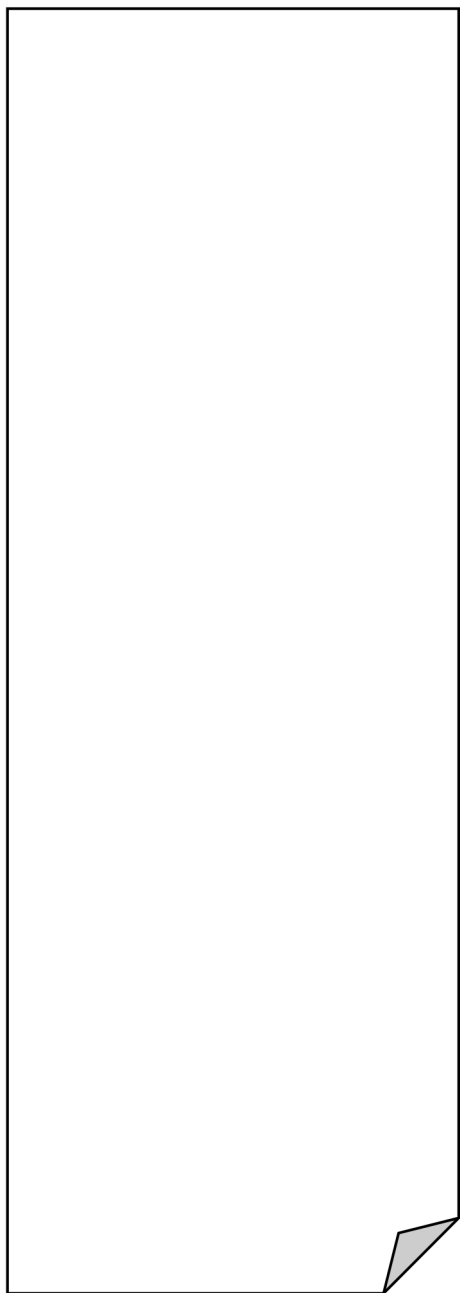








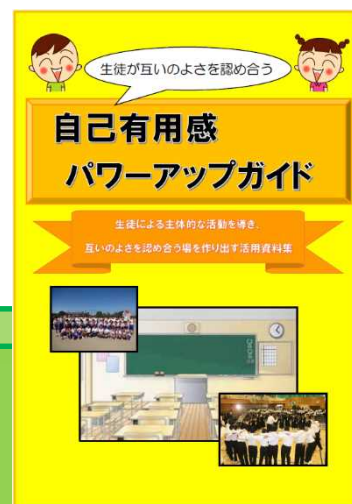






# 第5章

## コミュニケーションスキルの 向上シート



1. アイスブレイク
2. ソーシャルスキル
3. アサーション
4. エンカウンター

「話し合い活動」や「認め合い活動」の土台となる、  
生徒のコミュニケーションスキルの向上を  
目的としたワークシート集です。

## コミュニケーションスキルの向上

自己有用感を高めるためには、共感的な人間関係の中での活動が有効です。自分の考えを相手に伝え、また、相手の意見を受け止め、良好な人間関係を作っていくためには、適切なコミュニケーション能力も必要です。コミュニケーション能力を向上させる手立てには、以下のようなものがあります。

### アイスブレイク

初対面の人同士が出会う時、その緊張をときほぐすための手法。集まった人を和ませ、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作る。

### ソーシャルスキル

様々な社会的技能を育てるトレーニング。「相手を理解する」「自分の思いや考えを適切に伝える」「人間関係を円滑にする」「問題を解決する」「集団行動に参加する」などがトレーニングの目標となる。発達障害のある児童生徒の社会性獲得にも活用される。

### アサーション

「主張訓練」と訳される。対人場面で自分の伝えたいことをしっかり伝えるためのトレーニング。「断る」「要求する」といった葛藤場面での自己表現や、「ほめる」「感謝する」「うれしい気持ちを表す」「援助を申し出る」といった他者とのかかわりをより円滑にする社会的行動の獲得を目指す。

### エンカウンター

グループ体験を通して他者や自分自身に出会う方法。人間関係作りや相互理解、協力して問題解決する力などが育成される。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法。

「生徒指導提要」より